



Sekishou 通信



R7・2・19
NO, 29
文責：校長 酒



めざす児童像：夢や希望を追い求め、失敗も学びにかえる子

☆☆☆ 今年度最後の授業参観 ☆☆☆

どの教室も保護者の皆さんでびっしり、廊下での話し声も聞こえません。最後の参観授業は大盛況！

今回の授業参観、雪の影響から校庭への駐車ができず大変なご迷惑をおかけしました。頼みの綱としていたモトガッコと町民グラウンドの駐車場もイベントが重なってしまっていたためスペースが限られ、授業の開始に間に合わない方もいらっしゃったと報告を受けました。心からお詫び申し上げます。更に、授業後の家庭教育学級では会場が手狭で、入りきれなかった方もいらっしゃいましたこと重ね重ね申し訳ありませんでした。

授業は、担任と子ども達が、一人一人の成長をお見せできればと計画し準備を進めてきたものでしたが、いかがだったでしょうか？

どうしたの？

おかあさんまだきてない！

そうなの？きっとこっちに向かってるはずだよ、大丈夫！

でも、つぎはっぴょうなんだけど…、あつ、いたいたー。



1年生最後の参観授業



小学校最後の参観授業

大勢の保護者さんの中から見つけたお母さんに笑顔を向ける1年生。次の学年の参観の都合上、クラスを後にしましたが、きっと張り切って発表したことでしょう。

各学年の授業内容は生活科や総合的な学習の発表や交流、英語活動、合唱奏、鼓笛の披露等と多岐にわたりましたが、子ども達一人一人がお父さんお母さんに向けてしっかりとメッセージを伝えようとしていた姿がとても印象的でした。

一昨年の5月に新型コロナウィルス感染症が5類となったことで、やっと通常の授業参観が戻ってきました。それまでは、入場を制限し、オンラインを駆使し換気を十分にとりながら、開催自体に神経をすり減らすこともありましたので、普通のありがたさを噛みしめながら授業を参観して回りました。

授業後は、1～3年生は「郷土かるた大会」、4～6年生は「家庭教育学級」への参加としました。保護者の皆様には「家庭教育学級」への参加をお願いしましたので「カルタ取り大会」の様子は見ていただけませんでしたが、毎年のように大会の賞品を提供し続けてくださった深谷様をお迎えし、賑やかに実施することができました。中には、夢中なあまり泣き出す子もいたとか！？

地域に关心を持つきっかけともなる大切な取り組みとなりました。



さあ、どれかな？



深谷様が見つめる中



〇〇君、ちゃんと座つ

※ 活動の様子はHPでも紹介しています。

家庭教育学級「メディアが児童に及ぼす健康課題について」

鈴木 真嘉様の講演に、たくさんの方の参加を賜りましてありがとうございました。わずか1時間の講演でしたので、質問の時間も確保できなかったのですが、いかがでしたでしょうか？

とっても耳が痛い話でした。すごく怖くなりました。

と、帰りしなに声をかけてくださった保護者さん。週明けに、

帰ってから、我が子の様子を見たら、講演で聞いた姿と全く同じだと思いました。

我が子も、依存症が始まっていると思いました。

と、反響も大きく、親子で一緒に参加できたこともメディアについて話し合うきっかけとなり、有意義な講演となったのではと思います。今後、子ども達を取り巻く環境が良くなるよう、学校としても継続して指導する必要性を再確認しました。

講話の終盤に紹介してくださった「ママのスマホになりたい」（絵本）には、衝撃を受けました。この絵本ですが、元々はシンガポールの小学生の作文が基になっています。原文は次の通りです。

ぼくのママとパパはスマホが大好きです。

うちに帰ってくると、パパは僕とは遊んでくれないで、スマホでゲームをしています。

ママはスマホに電話がかかってくるとすぐ出ます。ぼくが「ねえねえ」と言ってもすぐには答えてくれないのに。

パパとママはスマホが大好きです。

ですから、パパとママが大好きなスマホにはぼくはなりたい。

「大人になつたら何になりたいですか？作文にしてみましょう。」との教師の指示で提出したもので、他の子が提出した「消防士」「スポーツ選手」「お花屋さん」等という作文の中にはありました。

脳トレで有名な東北大学教授の川島隆太氏が、随分前よりスマホやゲームと子ども達の発達関係について研究し、著書も多数出版しています。豊富なデータに基づいたある調査で興味深い結果が出ました。スマホと学校の成績との相関関係です。はたして成績の良い順番は？



A:家で2時間以上勉強する。スマホ時間をコントロールしている。

B:家で2時間以上勉強する。スマホは無制限。

C:家でほとんど勉強しない。スマホ時間をコントロールしている。

D:家でほとんど勉強しない。スマホは無制限。

成績の良い順はA・C・B・Dとなったと言います。A・Dは簡単に予想できますが、2番目がCだとは意外です。つまり、スマホを制限すれば、学校で勉強しただけでも成績がよいとの結果が出たのです。乱暴な言い方をすれば、学校や塾でいくら勉強をしてもスマホを制限なくやらせてしまえば成績は落ちる。それよりもスマホを与えない、スマホを制限させれば成績は伸びる。ネットゲーム等も同じ傾向となることは容易に想像できます。（「スマホが学力を破壊する」集英社参照）

鈴木様のご講話の「**早寝・早起き・朝ごはん**」が如何に大切であるかの裏付けともなる研究です。

ちなみに石小では「**食う・寝る・遊ぶ(歩く)**」を推奨しています。

スマホや年齢制限を守らないオンラインゲームによるトラブルが後を絶ちません。持たないはずのスマホ、やらないはずのオンラインゲームのトラブルを解決するのは全て先生方です。課金トラブル、いじめ、暴力、誹謗中傷、授業中の居眠りと枚挙にいとまがありません。親は「仲間外れにされるから」「みんな持っているから」の子の言葉になぜか無防備です。**持たせる前に、持たせたからには**、今一度お子さんと真剣に話し合ってほしいと思います。

学校ではこれからも引き続き以下のように、丁寧に厳しくそしてしつこく指導していきます。

★スマホは小学生には必要ないから持たない。

★スマホを持ってしまったら、親にきちんと管理してもらう(ルールを決める)。

★ライングループは作らない。

★不特定者とのオンラインゲームはしない。ゲームの年齢制限を必ず守る。

★課金は親と相談して決める。

★ノーメディア(メディアコントロール)・家読の日(水曜日)を守る。

◎ ご協力をお願いします。5年後10年後の子ども達のために！